

<「知るっば!久留米」 令和2年7月30日(木) 12:30~放送分>

筑後川の生き物 ～第5回～ 天然ウナギ

<ゲスト：筑後川防災施設くるめウス 川嶋 睦己さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば!久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

7月は久留米のシンボルである筑後川について知ろうということで、『筑後川の生き物』をテーマにお送りしていきます。

今回のゲストは、この方です。

ゲスト:川嶋睦己さん (以下「川嶋」)

筑後川防災施設くるめウスの川嶋睦己と申します。

よろしくお願いします。

坂本 今日筑後川の生き物シリーズ最終回の第5回です。

なんかあっという間の5週間だったような気がしますが、今日は今や幻になりました『天然ウナギ』です。

ウナギは私も大好きなんですけど、日本人にはとても馴染みの深い魚でありまして、もはや貴重な高級魚という感じなんですけれども、この筑後川でも天然のウナギは生息してるんですか？

川嶋 はい、生息しています。

しかし、大幅に数が少なくなっているんですね。

このウナギの稚魚であるシラスウナギも、50年前と比べると1/10に減少しているんだそうです。

この貴重な水産資源を守るために、下流域の漁協さんが稚魚の放流なんかをしているんですよ。

坂本 なるほどね、やっぱり減っているんですね。

少なくなったっていうのは色々ところで耳にしますが、ちょっと私たちも考えんといかんのかもしれませんね。

それでは、私も大好きなウナギなんですけど、調理された状態の蒲焼きや白焼きなんかは、みなさんにも馴染みかと思うんですけど、その生態はなかなか知られていないのかなと思います。

ちょっと教えてもらっていいですか？

川嶋 日本には、ニホンウナギとオオウナギという2種類のウナギが生息しているんですけど、食文化と関係の深いウナギはニホンウナギになります。

久留米市でも大善寺地区の『黒田の鰻』など市内各地で鰻料理を食べることができちゃいますが、ニホ

ンウナギの生態は、主に川などの淡水域で成長して、海に下って産卵をする降河回遊魚と呼ばれるお魚です。

ちなみに、第2回の放送でご紹介したエツは、海で成長して川を遡上して産卵するので、遡河回遊魚と呼ばれています。

ウナギは海で産卵をすると申し上げたんですけど、その場所はなんと日本から約 2500km 離れたフィリピン近海なんだそうです。

坂本 よくもまあ、そういう長い距離を泳いでくるなあという気はしますね。

降河回遊魚というのは、河を降りると書いて降河回遊魚。

遡河回遊魚というのは、河を遡ると書いて遡河回遊魚ということで、エツとウナギって真逆なんですね。

川嶋 そうですね、真逆ですね。

坂本 私も長距離泳ぐのは苦手なんですけど、よくそんなに長い距離を泳いでわざわざ筑後川に来てくれるんですね。

川嶋 そうですよ。私も今では25m泳ぐのがやっとなんですけど、海で卵から産まれたウナギの赤ちゃんは、透明な柳の葉っぱのような姿をしているんだそうです。

それで、泳ぐ力はそんなにないので、海流や潮の流れに乗って日本の近くまで流れてくるようです。

その後、シラスウナギに変態をして川を遡上してくるんです。

そして、川で成長するとよく鰻屋さんの看板にあるようなニホンウナギの姿になるんですね。

昼間は石垣や土手の穴などに隠れて過ごして、夜に動いて小魚やエビを食べるような魚です。

坂本 なるほど、石垣とかに潜んでいる姿、なんかいいですよ。

他に何か面白いお話はありますか？

川嶋 では、ウナギの色に着目して、お話をさせていただきます。

ウナギは、色が変わるお魚だと言われています。

生まれて海にいる間はほぼ透明なんですけど、川を遡上する際には天敵である鳥などに見つかりにくいように色が黒くなるんだそうです。

そこから黒子(くろこ)とも呼ばれているんだそうです。

その後、お腹が黄色がかった黄ウナギになって、産卵の時を迎えると最終形態の銀ウナギになるんだそうです。

ちなみに、ウナギという名前の由来には諸説あるのですが、先ほど申し上げた黄ウナギなんですけど、胸からお腹が黄色いところから「むなきい」→「むなぎ」→「うなぎ」になったと言われています。

他にも鳥の鶉(う)がウナギを食べるときに苦勞することから、「鶉が難儀する」→「うなんぎ」→「うなぎ」になったという説もあるんだそうです。

坂本 なかなか面白いお話のようですけれども、ウナギは私たちにとって非常に馴染みの深いお魚なんですけど、なかなか知らないことが多いというのがわかりました。
これまで1ヶ月間、くるめウスの川嶋さんには筑後川の色々なお魚についてお伺いしてきました。
今日が最後になりますので、川嶋さんから地元久留米のみなさんへメッセージをお願いします。

川嶋 とても名残り惜しくてこのスタジオから離れたくないんですけれども、筑後川流域には、今回ご紹介したお魚以外にもたくさんの生き物が住んでいます。
それらのひとつひとつの繋がりが、めぐりめぐって私たちの生活にも深く深く関わっているんですね。
これを生物多様性といいます。
ぜひ、みなさまにも身近な川やそこに住む生き物たちに関心を持っていただきたいです。
子どもたちは、これから夏休みに入りますので、ぜひお休みの間にくるめウスに遊びに来ていただけたらと思います。
本当に1ヶ月間ありがとうございました。

坂本 くるめウスの川嶋さん、改めましてありがとうございました。
筑後川防災施設くるめウスは、久留米市新合川の筑後川そばにあります。
開館時間は、午前9時30分から午後5時までで、毎週月曜日はお休みです。
みなさん、ぜひお出かけ下さい。
なお、新型コロナウイルス感染状況によっては、休館することもあります。
次回は、『道の駅くるめ』をテーマにお届けします。